

結ばれて同じ形に。

練習題 §. 22

be動詞

§. 21
1. Bhīm(asya)

§. 22
su(tā)

dīnā

bhavati.

~~Bhīmasena-~~
~~Pāṇḍu王の息子の名~~
~~m. Sg. G (属格)~~

sutā-
娘
f. Sg. N.
(主格)
(cf. suta-息子)

dīna-
adj
悲嘆に暮れた。
悲しむ

√bhū「有る, あり」
能動態 直説法 現在
単数 3人称 (p. 170)

Bhīma-
王の名
m. Sg. G (属格)

述語としての
形容詞は曲用
されるだけ?
↑ §. 15-4

Bhīma(王)の娘は悲しみに暮れた。

dīnāḥ

↑ §. 4, 21
dīnā(s) m. Pl. {N, Vo?}

同じ格

2. śarpena

daśtā

同じ格 kanyā

mṛtā.

śarpa-
蛇
m. Sg. I (具格)
by

√daśta-
p.pt.
咬まれた。
形容詞

kanyā-
f. Pl. N
少女・乙女

§. 115 II

(p. 173)

√mṛta-

p.pt. 死んだ

~~mṛta-~~ 死者
m. この曲用はない

↑ §. 20 (I)
śarpena

kanyāḥ

↑ §. 4, 22

kanyā(s)

f. Pl. {N, Vo, Ac.}

少女たちが蛇に咬まれて死んだ。
↓
蛇によって咬まれた少女が死んだ。

3. bhadre,
adj? f. Sg. Voc?
(bhadrā-)

(語幹 a で終わるけど
意味的に女性名詞
ā の変化もあつたか?
それとも連声関係?)

語彙ページの誤植と
いう可能性も?

(p.22: 形容詞だったら
修飾する名詞の性に合
わせて曲用するだけ)

コンマついてる Vocative
っぽいよね。

愛する君、

nr. pasyā

nr. pa → 王
m. Sg. G
(属格 ~)

senāyā

senā - 軍勢
f.

(必ずしも外連声
成りきた結果
とは限らない
のかな。)

↑
senāyāh
↑
senāyās
と直すと、
ayā te
āyās te
になる。

そのまま ayā te
f. Sg. I (具格)
by

ripu-senā

敵の軍勢

そのままと考えると

f. Sg. N

āh ← ās と

考えると

f. Pl. { N (主)
Voc. (呼)
Ac. (対) }

jitā.

§.115 II

√ jita-

征服された
討たれた。
(p.pt.)

(活用はまだ習って
ない)

愛する君よ、敵の軍勢は、
王の軍勢に征服された。

4. lajjāyā

lajjā -
羞ら、内気

f. Sg. I
(by)

kanyā

kanyā -
f. 少女, 乙女

↑
kanyāh

↑
kanyās

と
変形する式

そのままだと
f. Sg. N

ās t' と

f. Pl. { N
Voc
Ac. }

na praty-abhāsata.

adv.
ない(否定)

√ prati-bhās 「答える」

反射態 過去 単数 3人称

少女は羞らいために
答えなかった。

a [§ 15-1]

5. Sītāyā rahito Rāmo 'tiduḥkhito 'bhavat.

Sītā - f. 王妃の名

√rahita- とり残された ~ (Inst.) 失った p.pt.

Rāma- m. 王の名

atidāna- (adj) 気前の良い

√bhū- の能動態 過去 単数 3 人称

Sītās だと Pl. になておかしいだろ。

f. Sg. I (by)

(§ 15-1) ↑

Rāmah

↑ Rāmas m. Sg. N

複合法

ati + duḥkhita

Sītā

Sītā によりて とり残された Rāma は極めて悲嘆にくれた

で調べる。

ある、いる?

6. kanyābhiḥ

phalāni dattāni.

kanyā- f. 少女, 乙女

中性の Nominative

Inst.

↑ kanyābhis

f. Pl. I (by)

少女たちによりて果実が与えられた。

果実

7. kanyāyai phalam prādāt :

彼は少女に果実
を与えた。

8. bhadre
褒め人よ

śālāyām
広間?
Locative.

kanyāḥ
少女
↓
女性名詞
f.P.I.N

sīdanti.

3人称単数の語尾 si
「かれらは座る」
§. 61 V

9.

kr̥payā dhanam prādāt.

彼は慈悲から財を
与えた。

10. kanya yoh preṣyā śālām jagāma.

↑

Iの注にある

11. Sītayā kanyāyai phalam dattam.
Inst. 主 主

過去受動分詞の構文 → Inst.
少女: 単数

12. bhāryayā sahito Rāmo jagāma.

妻を伴ってラーマ王は去った。